



Hewlett Packard
Enterprise

HPE OneView 5.3 インストールガイド

摘要

本書では、HPE ProLiant DL および HPE BladeSystem のハードウェア環境でサポートされているハイパーバイザー上で HPE OneView 仮想アプライアンスをインストールおよびアップデートするための手順について説明します。

ご注意

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。Hewlett Packard Enterprise 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。Hewlett Packard Enterprise は本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書で取り扱っているコンピューターソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、Hewlett Packard Enterprise から許諾を得る必要があります。米国政府の連邦調達規則である FAR 12.211 および 12.212 の規定に従って、コマーシャルコンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアドキュメンテーションおよびコマーシャルアイテムのテクニカルデータ (Commercial Computer Software, Computer Software Documentation, and Technical Data for Commercial Items) は、ベンダーが提供する標準使用許諾規定に基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

他社の Web サイトへのリンクを使用すると、Hewlett Packard Enterprise Web サイト外に移動します。Hewlett Packard Enterprise の Web サイト以外の情報は Hewlett Packard Enterprise の管理対象外であり、それらの情報について責任を負いかねますのでご了承ください。

商標

Microsoft[®]、Windows[®]、および Windows Server[®]は、米国および/またはその他の国における Microsoft Corporation の登録商標または商標です。

VMware ESX[®]、VMware ESXi[™]、VMware vCenter[®]、VMware vCenter Server[™]、および VMware vSphere[®]は、VMware Inc.の登録商標または商標です。

Linux[®]は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

Red Hat[®]は、米国およびその他の国における Red Hat Software, Inc.の商標または登録商標です。



目次

| | |
|--|-----------|
| インストール準備 | 5 |
| 仮想マシンを展開する場所..... | 5 |
| HPE OneView によって監視または管理されるハイパーバイザーホストへの HPE OneView の展開..... | 5 |
| 高可用性のためのプランニング..... | 6 |
| ハイパーバイザーホストへの HPE OneView のインストール | 7 |
| ダウンロードの正当性および整合性の検証..... | 7 |
| VMware vSphere ハイパーバイザーホストへの HPE OneView 仮想アプライアンスのインストール..... | 8 |
| OVA ファイルのダウンロード..... | 8 |
| OVA ファイルの展開..... | 8 |
| Hyper-V ホストへの HPE OneView 仮想アプライアンスのインストール..... | 9 |
| Hyper-V の zip ファイルのダウンロード..... | 9 |
| Hyper-V zip ファイルの展開..... | 10 |
| KVM ハイパーバイザーホストへの HPE OneView 仮想アプライアンスのインストール..... | 11 |
| qcow2 tar.gz ファイルのダウンロード..... | 11 |
| qcow2 tar.gz ファイルの展開..... | 12 |
| DHCP 環境および非 DHCP 環境でのアプライアンスへの接続..... | 12 |
| アプライアンスの起動タスクの完了..... | 13 |
| 認定サービスアクセスの有効化または無効化..... | 14 |
| アプライアンスへの初回ログイン..... | 14 |
| アプライアンスネットワークの構成..... | 15 |
| HPE OneView アプライアンスのネットワークモード..... | 15 |
| HPE OneView のユーザーインターフェイスを使用したアプライアンスネットワークの構成..... | 16 |
| REST API を使用してアプライアンスネットワークを構成する..... | 17 |
| 次のステップ..... | 17 |
| アプライアンスのアップデート | 18 |
| アップデートパス..... | 18 |
| アップデート時間..... | 18 |
| アップデートの前提条件..... | 18 |
| 仮想アプライアンスのアップデート..... | 19 |
| アップデート後のアプライアンスのバックアップ..... | 20 |
| VMware 用のアプライアンス仮想マシンハードウェアの互換性をアップグレードする..... | 20 |
| アプライアンスの使用 | 22 |
| 仮想アプライアンスコンソールの使用..... | 22 |
| アプライアンスコンソールへのアクセスの制御..... | 22 |
| コンソールアクセスの制限..... | 23 |
| HPE OneView のドキュメントの場所..... | 23 |
| 設置の問題のトラブルシューティング | 25 |

| | |
|--|-----------|
| アプライアンスがネットワークにアクセスできない..... | 25 |
| 仮想ディスクのサイズが正しくないため、アプライアンスのアップデートを続行できない.... | 25 |
| アプライアンスのアップデート後に古い UI が表示される..... | 26 |
| VM ホストのパフォーマンスが低下している..... | 26 |
| IPv6 アドレスのみを使用するデバイスで、一部のタスクとデバイス監視が機能しない..... | 27 |
| アプライアンスが IPv6 モードの場合に、タスクが失敗する..... | 27 |
| vSphere VM ホストの時刻を手動で設定すると、VM が再起動しない..... | 28 |
| OVA ファイルを展開できない..... | 28 |
| ログインできない..... | 29 |
| | |
| Web サイト..... | 30 |
| | |
| HPE OneView 製品に関するフィードバック..... | 32 |
| | |
| HPE OneView Remote Technician..... | 33 |
| | |
| サポートと他のリソース..... | 34 |
| Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス..... | 34 |
| アップデートへのアクセス..... | 34 |
| リモートサポート（HPE 通報サービス）..... | 35 |
| 保証情報..... | 35 |
| 規定に関する情報..... | 35 |
| ドキュメントに関するご意見、ご指摘..... | 36 |



インストール準備

この章では、新しいアプライアンスで HPE OneView をインストールするための仮想マシン (VM) ホストの要件について説明します。

仮想マシンを展開する場所

HPE OneView は、[HPE OneView サポートマトリックス](#)にリストされている要件を満たすサーバーハードウェアに展開できます。HPE OneView を使用して HPE OneView が実行されているハイパーバイザーホストを管理する場合は、特定の制限が適用されます。詳しくは、[HPE OneView によって監視または管理されるハイパーバイザーホストへの HPE OneView の展開](#)を参照してください。

❗ **重要:** Hewlett Packard Enterprise では、HPE OneView 仮想アプライアンスは、管理機能専用のハイパーバイザー環境に展開し、本番ハイパーバイザー環境とは別にすることをお勧めします。

注記: 管理対象サーバーでアプライアンスをすでに構成している場合は、2 つ以上のハイパーバイザーホストで構成されているクラスターにアプライアンスがインストールされていることを確認してください。そうすることで、フェイルオーバーの場合にアプライアンスを別のクラスターメンバーに移行できます。

HPE OneView によって監視または管理されるハイパーバイザーホストへの HPE OneView の展開

サポートされている構成

HPE OneView アプライアンスによって監視または管理されるホスト上で HPE OneView が実行されている場合、次の構成がサポートされています。

| ハイパーバイザー構成 | 監視対象モード | 管理対象モード |
|------------|---------|--|
| 非 HA 構成 | サポート対象 | サポート対象外 |
| HA 構成 | サポート対象 | お勧めしません。 一般的なベストプラクティスと制限 を参照してください。 |

一般的なベストプラクティスと制限

仮想アプライアンスは、実行中のハイパーバイザーを検出できません。したがって、アプライアンスは、ホストの管理中にアプライアンスに悪影響を及ぼす、またはアプライアンスを停止させるアクションの実行を防止できません。

Hewlett Packard Enterprise では、HPE OneView によって監視または管理されるハイパーバイザーホスト上で HPE OneView を実行するには、次のベストプラクティスをお勧めします。

- ・ HPE OneView アプライアンスを実行しているハイパーバイザーホストの電源を切らない。
- ・ 高可用性のために、ハイパーバイザークラスター上に HPE OneView アプライアンスを展開する。HPE OneView アプライアンスをホストから移行してから、そのホストで保守作業を実行する。

- ・ ハイパーバイザーホストを管理対象としてではなく監視対象として追加する。このアクションにより、HPE OneView がホストで動作し、アプライアンスを停止させる可能性が低くなります。
- ・ HPE OneView アプライアンスが実行されているホストのサーバープロファイルを追加または編集しない。プロファイルの操作を実行する前に、アプライアンスをクラスター内の別のホストに移行する。

HPE BladeSystem のベストプラクティスと制限

- ・ **一般的なベストプラクティスと制限**に加えて、HPE OneView アプライアンスによって管理される HPE BladeSystem ハイパーバイザー環境で HPE OneView を実行する場合は、次の制限が適用されます。
 - エンクロージャーには、管理対象のインターコネクトに加えて、管理対象外（非 Virtual Connect）のインターコネクトモジュールを含める必要があります。HPE OneView ハイパーバイザーホストは、非 Virtual Connect のインターコネクトにのみ接続する必要があります。このアクションにより、通信に使用している接続を HPE OneView が誤って削除することはありません。
 - HPE OneView 論理インターコネクトグループに非 Virtual Connect モジュールを含めないでください。

高可用性のためのプランニング

HPE OneView を高可用性（HA）構成で使用するには、ハイパーバイザーのドキュメントを参照し、特定の要件を確認してください。

アプライアンスの可用性を維持するために、HPE OneView には構成設定および管理データをバックアップファイルに保存するバックアップ機能が用意されています。Hewlett Packard Enterprise は、できれば毎日、および主要な構成変更後、ご使用のアプライアンスのバックアップを取ることをお勧めします。

詳しくは、**HPE OneView ヘルプ**の「アプライアンスのバックアップ」および「アプライアンスをバックアップするためのベストプラクティス」のセクションを参照してください。



ハイパーバイザーホストへの HPE OneView のインストール

HPE OneView は、次の形式で配布されます。

| ハイパーバイザーホスト | ファイル形式 |
|----------------------------|--|
| VMware vSphere ハイパーバイザー | <p>オープン仮想化フォーマット (OVF) パッケージが含まれるオープン仮想アプライアンス (OVA) ファイルとしてパッケージ化されたものです。</p> <p>OVA の展開には、以下のいずれかを用いることができます。</p> <ul style="list-style-type: none">・ ホストシステムにインストールされた VMware vSphere Client (Microsoft Windows アプリケーション) または vSphere Web クライアント・ コマンドラインインターフェイス (CLI)・ REST API <p>このガイドでは、ホストシステムにインストールされた VMware vSphere Client (Microsoft Windows アプリケーション) または vSphere Web クライアントを使用して OVA を展開する方法を説明します。このガイドを利用した OVA ファイルの展開には、以下が必要となります。</p> <ol style="list-style-type: none">1. ホストシステムにインストールされた VMware vSphere Client (Microsoft Windows アプリケーション) または vSphere Web クライアント。2. HPE OneView をインストールするための HPE OneView for VMware vCenter サーバーへのアクセス。 |
| Microsoft Hyper-V ハイパーバイザー | <p>イメージ zip ファイルとしてパッケージ化されたもの。</p> <p>この.zip ファイルを使用して HPE OneView をインストールするには、Windows Server に Hyper-V の役割がインストールされている必要があります。</p> |
| Red Hat Linux KVM ハイパーバイザー | <p>tar.gz ファイルとしてパッケージ化されたもの。</p> |

ダウンロードの正当性および整合性の検証

My HPE Software Center から HPE OneView アプライアンスファイルをダウンロードする際、お使いのブラウザの HTTPS 接続は信頼されているセキュリティ証明書を使用するため、Hewlett Packard Enterprise の仮想アプライアンスイメージは信頼できます。

さらに、無償の GNU プライバシーガード (GPG) ツールを使用して、ファイルの正当性および整合性を検証できます。

- `gpg --verify <filename>.ova.sig <filename>.ova`
- `gpg --verify <filename>.zip.sig <filename>.zip`
- `gpg --verify <filename>.gz.sig <filename>.gz`

注記: このデジタル署名の確認手順は、アップグレードのインストールには必要ありません。アップグレードファイル (*.bin ファイル) がすでにデジタル署名されており、デジタル署名はアップグレード手順の間に自動的に検証されます。

検証する前に、最新バージョンのキー zip ファイルを必ずダウンロードしてください。検証手順について詳しくは、Web ページ (<https://www.hpe.com/downloads/codeverify>) を参照してください。

VMware vSphere ハイパーバイザーホストへの HPE OneView 仮想アプライアンスのインストール

OVA ファイルのダウンロード

物理メディアに OVA ファイルがない場合、[My HPE Software Center](#) から OVA ファイルをダウンロードします。

OVA ファイルのサイズは約 2 GB です。ダウンロード時間はネットワーク接続によって異なります。Hewlett Packard Enterprise では、My HPE Software Center が提供するダウンロードマネージャーなど、ダウンロードの再開がサポートされるダウンロードマネージャーを使用することをお勧めします。

手順

1. ハイパーバイザークライアントが実行されているシステムでブラウザを開きます。
2. [My HPE Software Center](#) にアクセスし、Free Software のリストから **Free Software > Family: HPE OneView** の順にクリックします。

注記: My HPE Software Center のアカウントがある場合、ファイルをダウンロードする前にログインする必要があります。まだ登録していない場合は、登録を求めるメッセージが表示されます。

3. OVA ファイルをローカルディレクトリにダウンロードします。
4. vSphere クライアントが実行されているシステムにローカルディレクトリが配置されているか、Web アドレスを使用してローカルディレクトリにアクセスできる必要があります。

注記: OVA ファイルは電子的に署名されています。<https://www.hpe.com/downloads/codeverify> の説明に従って、ダウンロードの正当性および整合性を検証することができます。詳細は、[ダウンロードの正当性および整合性の検証](#)を参照してください。

OVA ファイルの展開

手順

1. VMware vSphere Client を起動し、vCenter にログインします。
2. メニューから、**ファイル > OVF テンプレートのデプロイ**を選択し、**OVF テンプレートのデプロイウィザード**を起動します。
 - a. ソース画面で、以下のいずれかの情報を指定します。

- ・ OVA ファイルへのパス
 - ・ OVA ファイルの Web アドレス (URL) (Web サーバーでこのファイルにアクセスできるようにしている場合)
- b. **OVF テンプレートの詳細画面**の情報を確認します。
 - c. **名前と場所画面**で、インベントリフォルダー内で一意である、展開されたテンプレートの名前と場所を入力し、インベントリ場所を選択します。
 - d. **ホスト/クラスタ画面**で、展開されたテンプレートを実行するホストまたはクラスタを選択します。
 - e. **ストレージ画面**で、VM ファイルの保存先を選択します。
 - f. **ディスクのフォーマット画面**で、仮想ディスクの**シックプロビジョニング**を選択します。
Hewlett Packard Enterprise では、**Eager Zeroed** を選択することもお勧めします。

❗ **重要: シックプロビジョニングが必須なのは、シンプロビジョニングを選択すると、VM ホストでディスク領域が不足した場合にアプライアンス VM が一時停止されるためです。**ファームウェアのアップグレード、プロファイルの適用、アプライアンスアップデートのバックアップの実行など、何らかの処理を実行している間にこの状態が発生した場合、診断が困難な障害が発生する可能性があります、解決するのにサービスコールが必要になる場合があります。

- g. **ネットワークのマッピング画面**で、管理 LAN に接続できるネットワークを選択します。
- h. **終了準備の完了画面**で、選択したオプションを確認します。必要に応じて、**戻る** ボタンを使用して変更を加えます。**終了** をクリックし、テンプレートを完了して、展開を開始します。

展開が完了すると、VM を使用できます。

3. **概要タブ**で、**仮想マシンの電源を入れる** をクリックして、**コンソールタブ** をクリックし、アプライアンスの開始を監視します。

アプライアンスの電源が入れられてからブラウザー接続を受け入れるための準備ができるまで、ハードウェアによっては約 10 分かかります。この間、vSphere 仮想コンソールには、「Please wait while the appliance starts」というメッセージが表示されます。起動が完了すると、仮想コンソールに **HPE OneView EULA** 画面が表示されます。

アプライアンスへの接続方法について詳しくは、[DHCP 環境および非 DHCP 環境でのアプライアンスへの接続](#) を参照してください。

Hyper-V ホストへの HPE OneView 仮想アプライアンスのインストール

Hyper-V の zip ファイルのダウンロード

物理メディアに Microsoft Hyper-V zip ファイルがない場合は、My HPE Software Center から Hyper-V zip ファイルをダウンロードします。

zip ファイルは約 1.7 GB です。ダウンロード時間はネットワーク接続によって異なります。Hewlett Packard Enterprise では、My HPE Software Center が提供するダウンロードマネージャーなど、ダウンロードの再開がサポートされるダウンロードマネージャーを使用することをお勧めします。

手順

1. ハイパーバイザークライアントが実行されているシステムでブラウザを開きます。
2. **My HPE Software Center** にアクセスし、Free Software のリストから **Free Software > Family: HPE OneView** の順にクリックします。

注記: My HPE Software Center のアカウントがある場合、ファイルをダウンロードする前にログインする必要があります。まだ登録していない場合は、登録を求めるメッセージが表示されます。

3. zip ファイルをローカルディレクトリにダウンロードします。

注記: zip ファイルは電子的に署名されています。正当性と整合性は、<https://www.hpe.com/downloads/codeverify> にある手順に従いお客様で検証いただくことも可能です。

Hyper-V zip ファイルの展開

手順

1. Hyper-V ホストからアクセスできる場所に Microsoft Hyper-V イメージの zip ファイル (HPEOneView_<バージョン番号>.zip) を解凍します。
2. Hyper-V マネージャーを起動します。Hyper-V ホストを右クリックし、**仮想マシンのインポート**を選択します。
3. 仮想マシンのインポートウィザードで、Hyper-V イメージ zip ファイルの解凍場所に移動し、**Snapshots**、**Virtual Hard Disks**、および **Virtual Machines** という名前のディレクトリを見つけてから、それらを含んでいる親ディレクトリを選択します。
4. ウィザードの手順を進めて、アプライアンス仮想マシンをインポートします。

❗ **重要:** 仮想マシンをコピーする (新しい一意な ID を作成する) オプションを必ず選択してください。

5. アプライアンス VM が **HPE OneView サポートマトリックス** の「アプライアンス VM とホストの要件」に記載されているホスト要件を満たしていることを確認します。設定を編集する場合は、アプライアンス VM を右クリックし、**設定**を選択します。
6. VM のインポート後、Hyper-V でハードディスク (VHDX) を **固定サイズ** のディスクに変換します。
 - a. **設定** を選択し、仮想ハードディスクを選択します。
 - b. 現在のディスクを編集し、**変換** を選択し、**容量固定** を選択します。
ディスクを **固定サイズ** に変換すると、新しい仮想ハードディスク (VHD/VHDX) が作成されます。
 - c. **ハードディスク > 仮想ハードディスク** 参照して新しいハードディスクをポイントします。
変換プロセスは、新しく作成されたハードディスクを自動的にポイントしません。

❗ **重要:** 固定サイズのディスクが必要であるのは、**動的に拡大** を選択した場合、VM ホストのディスク容量が不足すると、アプライアンス VM が一時停止するためです。ファームウェアのアップグレード、プロファイルの適用、アプライアンスアップデートのバックアップの実行など、何らかの処理を実行している間にこの状態が発生した場合、診断が困難な障害が発生する可能性があります。解決するのにサービスコールが必要になる場合があります。

7. ネットワークアダプターを構成します。ハイパーバイザーの UI を使用して、VM ネットワークアダプターを設定します。

- a. VM が展開されたら、設定を編集してネットワークアダプターを設定する必要があります。設定オプションをクリックします。
- b. VM 設定で、**ネットワークアダプター**をアップデートし、管理 LAN に接続されている適切な仮想スイッチをポイントするようにします。
- c. **OK** をクリックして設定を保存します。

❗ **重要:**

- ・ アプライアンスは、管理 LAN 上で 1 つの NIC をサポートします。
- ・ 通常、ネットワーク構成に応じて、ネットワークアダプターを 1 つ以上の仮想スイッチに接続します。
- ・ VLAN と VLAN 識別子を使用しない場合には、VLAN ID ボックスのチェックを必ず外してください。

8. 仮想アプライアンスの電源を入れる前に、VM ホストシステムの日時が正しく設定されていることを確認します。VM ゲストは VM ホストシステムの時刻と同期するため、VM ホストシステムでは、NTP などのツールを使用して正確な時刻を維持してください。VM ホストの時間が適切に設定されていない場合は、アプライアンスの起動時に以下のメッセージが表示されます。The time and date on your hypervisor appears to be incorrect. Please power off your appliance, correct the time and date on your hypervisor, and power on your appliance. この問題が発生した場合は、メッセージの指示に従ってください。
9. 仮想マシンの電源を初めてオンにします。Hyper-V マネージャーで、アプライアンス VM を右クリックし、電源を入れます。
コンソールにアプライアンスのライセンスおよびサポートの画面が表示されます。これで、初めてアプライアンスにログインできます。

KVM ハイパーバイザーホストへの HPE OneView 仮想アプライアンスのインストール

qcow2 tar.gz ファイルのダウンロード

tar.gz ファイルは約 1.8 GB です。ダウンロード時間はネットワーク接続によって異なります。Hewlett Packard Enterprise では、My HPE Software Center が提供するダウンロードマネージャーなど、ダウンロードの再開がサポートされるダウンロードマネージャーを使用することをお勧めします。

手順

1. Web ブラウザーを開きます。
2. **My HPE Software Center** にアクセスし、Free Software のリストから **Free Software > Family: HPE OneView** の順にクリックします。
My HPE Software Center のアカウントがある場合、ファイルをダウンロードする前にログインする必要があります。登録されていない場合、登録を求めるメッセージが表示されます。
3. tar.gz ファイルをローカルディレクトリにダウンロードします。

注記: zip ファイルは電子的に署名されています。 <https://www.hpe.com/downloads/codeverify> の手順に従って、正当性と完全性を検証できます。

qcow2 tar.gz ファイルの展開

手順

1. 次のコマンドを使用して、qcow2 イメージ tar.gz ファイルを Linux ホストからアクセスできる場所に抽出します。

```
tar -xvzf filename
```

2. Virtual Machine Manager またはその他の任意の仮想マシン管理ツールを開きます。
3. Virtual Machine Manager のメニューから **ファイル > 新しい仮想マシン** を選択し、新しい VM ウィザードを起動します。
4. 新しい VM ウィザードで次の手順を実行します。

- a. VM の名前を指定します。
- b. オペレーティングシステムをインストールするために、**既存のディスクイメージをインポートオプション** を選択し、**進む** をクリックします。
- c. お使いのローカルマシンの qcow2 ファイルの場所にアクセスします。**OS タイプ** には **Linux** を選択し、**バージョン** には **Red Hat Enterprise Linux 7** を選択します。

バージョンリストに **Red Hat Enterprise Linux 7** がない場合は、**OS タイプとバージョン** に汎用を選択します。**進む** をクリックします。

- d. **メモリ (RAM)** を **24000 MB (24 GB)**、**CPU** を **8** に設定し、**進む** をクリックします。
- e. VM のストレージを有効にし、ディスクイメージのサイズを **275 GB** 以上に設定して、**今すぐディスク全体を割り当てる** を選択します。**進む** をクリックします。

❗ **重要:** ここで、必ず、ディスク全体を割り当てます。これを怠ると、VM ホストでディスク領域が不足した場合にアプライアンス VM が一時停止してしまいます。ファームウェアのアップグレード、プロファイルの適用、アプライアンスアップデートのバックアップの実行など、何らかの処理を実行している間にこの状態が発生した場合、診断が困難な障害が発生する可能性があります。解決するのにサービスコールが必要になる場合があります。

- f. **ネットワーク** で、管理 LAN に接続できるネットワークデバイスを選択し、**入力モード** として **ブリッジ** を選択します。
- g. **Disk bus** フィールドで **IDE** が選択されていることを確認します。
- h. **完了** をクリックします。

仮想マシンコンソールから HPE OneView アプライアンス (VM) が起動するようになります。

DHCP 環境および非 DHCP 環境でのアプライアンスへの接続

アプライアンスには静的 IP アドレスが必要です。インストールの際に初めてアプライアンスに接続する場合にのみ、DHCP が使用されます。

注記: ネットワークの問題があり、アプライアンスに接続できない場合は、ハイパーバイザーの仮想コンソールを使用してアプライアンスにログオンし、ネットワーク設定を確認または変更します。Microsoft Hyper-V の VM では、仮想コンソールからアプライアンスネットワークを構成する必要がありますが、これは、Linux の統合サービスでは、管理ネットワークで DHCP が利用できる場合仮想マシンの IP アドレスレポートを行わないためです。

アプライアンスに初めて接続するときは、ホスト環境がどのように構成されているかに応じて、以下のどちらかの方法を使用します。

DHCP を使用

- VMware vSphere

vSphere 仮想コンソールの**サマリタブ**を使用して、アプライアンスの初期 IP アドレスを確認します。次に、ローカルコンピューターで実行されているブラウザで、アプライアンスの IP アドレスを使用してアプライアンスに接続します。

- Microsoft Hyper-V

管理 LAN 上で DHCP とダイナミック DNS を使用できる場合、アプライアンスは起動時に `ci-<MAC アドレス>` の形式で DNS 名を登録します。

アプライアンスのイーサネット MAC アドレスについては、Hyper-V マネージャーの**ネットワークタブ**を使用して確認できます。ブラウザのアドレスバーで名前を使用します。例 : `https://ci-<MAC アドレス>.example.com`

ダイナミック DNS がない場合は、仮想コンソールを使用してアプライアンスに接続します。Hyper-V マネージャーで**接続**を選択し、アプライアンスコンソールに接続して、初期セットアップ手順を実行します。

- KVM

`virt-manager` と入力して、Virtual Machine Manager にアクセスします。VM を選択し、仮想コンソールのブラウザを使用して、仮想コンソールでアプライアンスに接続します。

DHCP を使用しない

- VMware vSphere

仮想コンソールで実行されているブラウザで、vSphere 仮想コンソールを使用してアプライアンスに接続します。**Ctrl + Alt** キーを押して、仮想コンソールを終了します。

- Microsoft Hyper-V

Hyper-V マネージャーで**接続**を選択し、アプライアンスコンソールに接続して、初期セットアップ手順を実行します。

- KVM

`virt-manager` と入力して、Virtual Machine Manager にアクセスします。VM を選択し、仮想コンソールのブラウザを使用して、仮想コンソールでアプライアンスに接続します。

アプライアンスの起動タスクの完了

手順

- まだアプライアンスに接続していない場合は、**DHCP 環境および非 DHCP 環境でのアプライアンスへの接続**で説明されているいずれかの方法を使用してアプライアンスに接続します。
- HPE OneView EULA 画面で、EULA を確認し、**同意する**をクリックして続行します。

注記: 同意しないをクリックすると、先に進むことはできません。

3. HPE OneView サポート画面で、アプライアンスへのサービスアクセス認証を有効にするか、無効にするかを決定します。詳しくは、[認定サービスアクセスの有効化または無効化](#)を参照してください。
4. OK をクリックして次に進みます。

認定サービスアクセスの有効化または無効化

アプライアンスを起動したときに、現場での認定テクニカルサポート担当者によるアクセスを有効または無効にすることができます。デフォルトでは、現場での認定テクニカルサポート担当者によるアクセスが有効になっています。これにより、テクニカルサポート担当者は、アプライアンスコンソールを介してシステムにアクセスし、報告を受けた問題を診断できます。

サポートアクセスは root レベルのシェルです。これにより、現場の認定テクニカルサポート担当者は、パスワードリセット用のチャレンジ/レスポンス方式に似た方法を使用してワンタイムパスワードを取得することにより、アプライアンス上の問題をデバッグできます。

インフラストラクチャ管理者は、アプライアンスの初期設定後はいつでも、以下の手順で UI からサービスアクセスを有効化または無効化できます。

前提条件

権限：インフラストラクチャ管理者。

手順

1. メインメニューから **設定** を選択します。
2. セキュリティパネルで **編集** アイコンをクリックします。
セキュリティの **編集** ウィンドウが開きます。
3. サービスコンソールアクセスの適切な設定を選択します。
 - a. **無効**
コンソールへのアクセスを禁止します。
 - b. **有効**
コンソールへのアクセスを許可します。
4. **OK** をクリックします。

また、`/rest/appliance/settings` REST API を使用してサービスアクセスを有効または無効にできます。

注記: Hewlett Packard Enterprise ではアクセスを有効にすることをお勧めします。無効にすると、認定テクニカルサポート担当者がアプライアンスにアクセスして問題のトラブルシューティングを行うことができなくなります。

アプライアンスへの初回ログイン

次の手順では、デフォルトの認証情報を使用してアプライアンスにログインします。通常、この作業は、VM のコンソールウィンドウで実行される、特別に制限されたブラウザを使用して行われます。

注記: ファクトリーエクスプレスプロセスのフォームで指定したユーザー提供のパスワードを使用することを選択した場合は、デフォルトの **administrator / admin** ログインパスワードは失敗します。この場合は、フォームで指定したユーザー名とパスワードを使用してください。

手順

1. アプライアンスに初めてログインする場合、以下のデフォルトの認証情報を使用します。

ユーザー名 : Administrator

パスワード : admin

デフォルトの認証情報を使用してログインできない場合は、[ログインできない](#)を参照してください。

2. 直ちに Administrator の認証情報の変更が要求されます。デフォルトパスワードを、8文字以上の任意のパスワードに変更します。

アプライアンスネットワークの構成

プロセスの次の手順は、ユーザーインターフェイスを使用してアプライアンスネットワークを構成することです。

VM アプライアンスでは、以下の方法で IP アドレスを構成できます。

- ・ 静的 IP アドレスを使用して手動で割り当てる。
- ・ 静的予約付き DHCP を使用する。これにより、アプライアンスが常に同じ IP アドレスから発行されるようにする。

HPE OneView アプライアンスのネットワークモード

HPE OneView アプライアンスでは、IPv4 および IPv6 の 2 つの IP アドレッシングモードをサポートしています。ネットワーク構成は、HPE OneView アプライアンスの初期セットアップ時にのみ設定でき、IPv4 が有効かどうかによって決定されます。IPv4 が有効である場合、IPv6 アドレスを提供しても、アプライアンスは IPv4 モードになります。IPv4 が無効である場合、アプライアンスが IPv6 モードで、IPv6 アドレスを使用してのみ通信できることを示します。

・ IPv4 (デフォルト)

このネットワーク構成では、HPE OneView アプライアンスおよびすべての管理対象デバイスに IPv4 アドレスを割り当てる必要があります。オプションで IPv6 アドレスを割り当てることもできます。IPv4 モードでは、HPE OneView の全機能がサポートされています。

HPE OneView アプライアンスと管理対象デバイス間の通信では、IPv4 が使用されます。

注記: IPv4/デュアルスタックモードでは、Superdome Flex システムは IPv4 アドレスを必要としません。Superdome Flex システムに IPv6 アドレスのみがある場合は、HPE OneView アプライアンスにも IPv6 アドレスがある限り機能します。

・ IPv6

このネットワーク構成では、HPE OneView アプライアンスに IPv6 アドレスを割り当て、IPv4 を無効にする必要があります。すべての管理対象デバイス用は、IPv6 アドレスで構成する必要があり、オプションで、IPv4 アドレスで構成することもできます。このモードでは、HPE OneView の機能が一部サポートされていない場合があります。次の [IPv6 ネットワークの制限](#)を参照してください。

HPE OneView アプライアンスと管理対象デバイス間の通信では、IPv6 が使用されます。

- ❗ **重要:** アプライアンスのネットワーキングのタイプは、アプライアンスの初期セットアップ手順のネットワーク構成ステップでのみ設定できます。IPv4 が有効の場合、アプライアンスは IPv4 モードになります。IPv4 が無効の場合、アプライアンスは IPv6 モードになります。アプライアンスを工場出荷時の状態に完全にリセットすると、アドレスモードを変更できます。例えば、初期セットアップ中に IPv4 を有効にした場合、アプライアンスの工場出荷時設定を完全にリセットしないと、ネットワークタイプを再構成できません。このような制限により、IPv4 モードで実行されているアプライアンスを、アップグレード後であっても IPv6 モードに切り替えることはできません。

IPv6 ネットワークの制限

- IPv6 ネットワークモードがサポートされるのは、管理対象となるラックマウント型サーバーに限定されます。Hewlett Packard Enterprise c7000 エンクロージャーおよびブレードは、アプライアンスでエンクロージャーの追加オプションが有効になっていても、サポートされません。
- HPE OneView にサーバーハードウェアを追加する場合は、IPv6 アドレスを範囲指定することはできません。
- HPE Nimble ストレージシステムと HPE 3PAR StoreVirtual ストレージシステムでは、IPv6 はサポートされていません。
- Brocade Fabric OS (FOS) スイッチ SAN マネージャーおよび Brocade Network Advisor (BNA) SAN マネージャーはサポートされていません。
- HPE Virtual Connect の移行は、IPv6 では機能しません。
- バックアップは、同じネットワークモードを使用してアプライアンスにのみリストアできます。
- アプライアンスは、IPv4 ネットワーク上のデバイスとの間の送受信ができません。
- DL サーバー用 HPE OneView Remote Support は、次の制限付きでサポートされます。
 - 最小 iLO ファームウェア：
 - iLO 4 - v2.60
 - iLO 5 - v1.30
 - HPE OneView は、IPv4 のみをサポートするリモートサポートバックエンドと通信するために、IPv6 から IPv4 に変換するプロキシサーバーで構成する必要があります。

詳細情報

IPv6 アドレスのみを使用するデバイスで、一部のタスクとデバイス監視が機能しない

アプライアンスが IPv6 モードの場合に、タスクが失敗する

HPE OneView のユーザーインターフェイスを使用したアプライアンスネットワークの構成

最初に Administrator としてログインした後、アプライアンスネットワーク画面が表示されます。この画面のほとんどの情報は自動的に設定されます。ただし、以下の情報を指定する必要があります。

アプライアンスホスト名

アプライアンスホスト名のフィールドにはデフォルトの名前が表示されますが、このデフォルト名を任意のホスト名に変更することができます。

注記: DNS（ドメインネームサービス）サーバーを直接的または間接的に指定する場合、完全修飾ホスト名を指定する必要があります。

・ IPv4 アドレス

アドレス割当てについて適切な設定を選択します。

- なし - IPv6 のネットワークモードを選択します。
- マニュアル - IP アドレスを手動で割り当てます。
- DHCP - DHCP サーバーで予約済みの DHCP を使用します。該当しない場合は、定義済みの静的 IP アドレスを使用します。詳しくは、[DHCP 環境および非 DHCP 環境でのアプライアンスへの接続](#)を参照してください。

・ IPv6 アドレス

アドレス割当てについて適切な設定を選択します。

- なし - IPv6 ネットワークモードを無効にします。
- マニュアル - IP アドレスを手動で割り当てます。
- DHCPv6 - 予約済みの DHCP のみを使用します。該当しない場合は、静的 IP アドレスを使用します。

・ DNS サーバーアドレス

DNS を使用する場合、ここで DNS サーバーのアドレスを入力します。

IP アドレスを変更すると、HPE OneView によってセキュリティ証明書が再生成され、ユーザーはログイン画面に自動的にリダイレクトされます。

アプライアンスネットワーク設定の構成で使用可能なオプションについて詳しくは、[?](#) をクリックします。

REST API を使用してアプライアンスネットワークを構成する

アプライアンスネットワークを初めて構成するためのすべてのネットワーク設定が含まれる `/rest/appliance/network-interfaces` API を使用して、REST API の POST 操作を使用できます。

詳細については、[?](#) をクリックして [HPE OneView API リファレンス](#) のリンクにアクセスしてください。

次のステップ

インストールとアプライアンスネットワークを構成が完了したら、次の手順は、データセンターのリソースをアプライアンス管理の下に置くことです。

詳しいガイド付きセットアップウィザードは、HPE OneView UI で使用可能です。ガイド付きセットアップウィザードでは、構成を進めていくときにやり直しを最小限に抑えられるように、アクションのリストが表示されます。このリスト内の項目は、UI の画面に直接リンクされています。

UI には、HPE OneView で使用される領域および用語について説明したチュートリアルも用意されています。[HPE OneView ヘルプ](#) で補足情報を参照することができます。

アプライアンスのアップデート

この項では、HPE OneView の 1 つのバージョンから別のバージョンへアプライアンスをアップデートする方法について説明します。

アップデートパス

HPE OneView の以前のバージョンやアップグレードパスについて詳しくは、[HPE OneView ライフサイクルページ](#)を参照してください。

アップデート時間

アップデート時間の詳細情報については、[HPE OneView リリースノート](#)を参照してください。

アップデートの前提条件

HPE OneView をアップグレードする前に、次の点を確認します。

- ・ VM ホストとそのリソースが、[HPE OneView サポートマトリックス](#)の「アプライアンスの VM とホストの要件」に示す最小要件を満たしていること。

- ① **重要:** 仮想アプライアンスは、8 つの CPU コアと 24 GB のメモリで構成する必要があります。必要に応じて、続行する前に、アプライアンスをシャットダウンして VM 構成をアップデートし、アプライアンスを再起動します。

- ・ インフラストラクチャ管理者権限を持つユーザーとしてアプライアンスにログインしていること。
- ・ ハイパーバイザークロックが正しい時刻に設定されていること。
- ・ ハイパーバイザーで、アプライアンス仮想ディスクのサイズが 275 GB であることを確認したこと。ディスクサイズが 275 GB でない場合は、サイズを編集します。
 - VMware vSphere Client の場合は、設定の編集。
 - Microsoft Hyper-V クライアントの場合は、仮想ハードディスクの編集。
- ・ 他のユーザーがアプライアンスにログインしていないこと (HPE OneView の REST API への外部ツールからのアクセスを含む)、またアップデート中に誰もログインしないこと。
- ・ HPE OneView の Update Readiness Checker を使用して、アプライアンスの状態を評価済みであること。このチェッカーをダウンロードするには、<https://www.hpe.com/support/ov-urc> にアクセスしてください。詳しくは、ダウンロードに含まれる README ファイルを参照してください。
- ・ アプライアンスのユーザーインターフェイスまたは REST API を使用して、アプライアンスをバックアップしたこと。
 - **アプライアンスのユーザーインターフェイス :**
手動バックアップ
 1. **設定 > バックアップ > アクション > バックアップの作成**の順に選択します。
 2. **設定 > バックアップ > アクション > バックアップのダウンロード**の順に選択します。リモートバックアップ

1. 設定 > リモートバックアップの場所 > バックアップ設定の編集の順に選択します。
2. リモートバックアップの場所の有効化を選択し、必要な情報を入力します。OK をクリックします。
3. リモートバックアップの場所にバックアップが保存されていることを確認します。

◦ REST API :

手動バックアップ

1. /rest/backups
2. /rest/backups/archive/{id}

リモートバックアップ

1. /rest/backups/config
2. /rest/backups/remotearchive/{id}

サポートが必要な場合は、[HPE OneView ヘルプ](#)トピック「アプライアンスの手動バックアップ」または「自動リモートバックアップの構成」を参照してください。

- ・ HPE OneView で管理されるすべての iPDU 電力供給デバイスを、2.0.22.12 の最小のファームウェアバージョンにアップグレードしたこと。Hewlett Packard Enterprise では、最新のファームウェアバージョンにアップグレードすることを推奨します。

詳細情報

[HPE OneView サポートマトリックス](#)

仮想アプライアンスのアップデート

手順

1. アプライアンスのバックアップを含め、**前提条件**を満たしていることを確認します。
2. ★★仮想マシンアプライアンス用の HPE OneView update image <ファイル名>.bin を、**My HPE Software Center** からローカルコンピューターにダウンロードします。

❗ **重要:** アプライアンスのプラットフォームと互換性のあるイメージファイルを選択します。

3. アプライアンスにログインし、設定 > アプライアンス > アクション > アプライアンスのアップデートの順に選択します。
4. ダウンロードしたイメージファイルをアプライアンスの UI 画面にドラッグアンドドロップするか、ブラウズすることによって、この UI 画面からイメージファイルを利用できるようにします。

注記: サポートが必要な場合は、[HPE OneView ヘルプ](#)トピック「アプライアンスのアップデート」を参照してください。

5. イメージファイルをアップロードするには、以下を実行します。

- ・ HPE OneView 5.2 より前のバージョンをアップデートする場合は、**アップロードおよびインストール** ボタンをクリックすると、アップロードの完了直後にインストールが開始されます。
 - ・ HPE OneView 5.2 以降のバージョンをアップデートする場合は、**イメージファイルをアップロード** し、**プロンプトを待ってインストールします** オプションを使用し、**アップロード** をクリックします。
6. ファイルのアップロードと検証が完了したらライセンス契約に同意し、**アップデート** をクリックしてアップデートプロセスを開始します。

注記:

アップデート中にアプライアンスを手動で再起動したりシャットダウンしたりしないでください。アップデートの中断は回復不能で、アプライアンスデータをバックアップファイルからリストアしなければならなくなります。

-
7. アップデートが完了したら、キャッシュをクリアして、アップデートを開始したもの以外のアプライアンスに接続されているすべてのブラウザインスタンスを更新します。

詳細情報

アップデートの前提条件

アップデート後のアプライアンスのバックアップ

アプライアンスをアップグレードした後、忘れずに新しいバックアップファイルを作成してください。アプライアンスをリストアする必要がある場合は、同じバージョンのアプライアンスで作成されたバックアップファイルからのみ実行できます。

VMware 用のアプライアンス仮想マシンハードウェアの互換性をアップグレードする

HPE OneView には、Spectre および Meltdown に対する脆弱性を緩和するための適切なアップデートが組み込まれています。

HPE OneView 自体には Spectre/Meltdown に対する脆弱性はありませんが、完璧を期すため、セキュリティアップデートが HPE OneView に組み込まれています。

VMware 環境では、仮想マシンのハードウェアバージョンによって、仮想マシンで使用できる仮想ハードウェア機能が決まります。VMware ユーザーインターフェイスではこれを、VM の「VM バージョン」または「互換性」と呼んでいます。VMware では、仮想マシンのハードウェアバージョンが 11 より新しいものであることが必須です。これにより、該当するすべての Spectre/Meltdown ハイパーバイザーホストハードウェア修正が正しく仮想化され、ゲスト VM がこれを使用できるようになります。HPE OneView 仮想アプライアンスの新しいインストールでは、仮想ハードウェアバージョン 11 をサポートしています。

アップグレードインストールでは、ハードウェアバージョン 11 より古い場合、HPE OneView 仮想アプライアンスについてハードウェアバージョンの 1 回限りのアップデートを管理者が手動で実行する必要があります。

次の例では、VMware vSphere Client を使用してアップデートを実行します。

手順

1. 現在の HPE OneView 仮想アプライアンスのハードウェアバージョンを確認します。バージョン 11 より古い場合は、以下の手順に進みます。
2. 仮想アプライアンスを安全にシャットダウンします。
3. 仮想アプライアンスのハードウェアバージョンをアップデートするには、仮想マシンを右クリックし、メニューオプションを選択して仮想ハードウェアをアップグレードします。インターフェイスは、VMware vSphere Client のバージョンとタイプによってわずかに異なります。
 - a. ローカルにインストールされている VMware vSphere Client の場合、オプションは**仮想ハードウェアのアップグレード**です。
 - b. VMware vSphere Web Client の場合は、**互換性 > 仮想マシンの互換性のアップグレード**の順に選択します。

注記: 仮想ハードウェアをアップグレードまたは仮想マシンの互換性のアップグレードするオプションは、仮想マシン上の仮想ハードウェアがサポートされている最新バージョンではない場合にのみ表示されます。

- c. VMware ESXi 6.0 以降の互換性オプションを選択します。ハードウェアバージョン 11 に対応しているのは VMware ESXi 6.0 です。
- d. 仮想ハードウェアのアップグレードを継続するには、**はい**をクリックします。
- e. HPE OneView 仮想アプライアンスの電源をオンにします。

VMware vSphere ハイパーバイザーホストへの HPE OneView 仮想アプライアンスのインストール

HPE OneView をインストールまたは再イメージする場合、ESXi は 6.0 以降である必要があります。そうでない場合、次のエラーが表示されます。

宛先ホストには、VM がアップグレードされる予定のハードウェアバージョンとの互換性がありません。

アプライアンスの使用

仮想アプライアンスコンソールの使用

仮想アプライアンスコンソールには、以下のことをサポートする制限付きのブラウザインターフェイスがあります。

- ・ DHCP 以外の環境でのアプライアンスのネットワーク構成
- ・ 管理者アカウントのパスワードリセット要求
- ・ 認定テクニカルサポートのための高度な診断

初めてアプライアンスにアクセスして、アプライアンスのネットワークを構成するには、仮想アプライアンスコンソールを使用します。仮想アプライアンスコンソールを使用すると、DHCP 以外の環境のネットワークにアプライアンスをブートストラップすることができます。仮想アプライアンスコンソールは、ブラウザの全機能を装備した代替のものではありません。

仮想アプライアンスコンソールが、ブラウザセッションを開始します。ブラウザは全画面表示であるため、タブを追加することはできません。ソフトウェアアップデートやファームウェアバンドル（SPP）のアップロードなど、ダイアログボックスからファイルを選択する必要がある操作は実行できません。「進む」や「戻る」といった基本的なブラウズ操作のみを実行できます。

仮想アプライアンスコンソールのキーの組み合わせ

| キーの組み合わせ | | 機能 |
|--------------------|---------------|------------------|
| Alt+← | (Alt と左矢印) | 前のページを参照 |
| Alt+→ | (Alt と右矢印) | 次のページを参照 |
| Ctrl++ | (Ctrl とプラス記号) | 拡大 |
| Ctrl+- | (Ctrl とハイフン) | 縮小 |
| Ctrl+0 | (Ctrl とゼロ) | ズームをリセット |
| Ctrl+F | | 検索 |
| Ctrl+R | | リロード/表示の更新 |
| または F5 | | |
| Ctrl+Alt+Backspace | | ブラウザインターフェイスの再起動 |

アプライアンスコンソールへのアクセスの制御

ハイパーバイザー管理ソフトウェアを使用して、アプライアンスへのアクセスを制限します。これにより、未認可のユーザーがパスワードリセットおよびサービスアクセス機能にアクセスできなくなります。

一般的に、コンソールにアクセスする場合の合理的な用途は、次のとおりです。

- ・ ネットワーク構成に関する問題のトラブルシューティング
- ・ アプライアンスの管理者パスワードのリセット
- ・ 現場での認定テクニカルサポートによるサービスアクセスの有効化

仮想アプライアンスコンソールは、グラフィカルコンソールに表示されます。パスワードをリセットして Hewlett Packard Enterprise サービスにアクセスするには、非グラフィカルコンソールを使用します。

あるコンソールから別のコンソール（VMware vSphere および Microsoft Hyper-V）への切り替え：

1. 仮想アプライアンスコンソールを開きます。
2. **Ctrl + Alt** キーを押し続けます。
3. スペースキーを押して離します（VMware vSphere のみ）。
4. 非グラフィカルコンソールを選択するには **F1** キーを押して離し、グラフィカルコンソールを選択するには **F2** キーを押して離します。

コンソール間の切り替え（KVM）：

1. Virtual Machine Manager を開きます。
2. メニューバーで、非グラフィカルコンソールの場合は、**送信キー > Ctrl+Alt+F1** を選択し、グラフィカルコンソールの場合は**送信キー > Ctrl+Alt+F2** を選択します。

コンソールアクセスの制限

ハイパーバイザー自体の安全な管理方法によって、仮想アプライアンスへのコンソールアクセスを制限できます。

VMware vSphere の場合、この情報は、次の VMware の Web サイトから入手できます。

<https://www.vmware.com>

特に、vSphere の Console Interaction 権限と、VMware の役割と権限を管理するためのベストプラクティスに関するトピックを検索して参照してください。

HPE OneView のドキュメントの場所

HPE OneView ヘルプ

アプライアンス上のヘルプを表示するには、**?** をクリックしてを開きます。

サイドバーのリンクから、新しいブラウザーウィンドウまたはタブにヘルプを開くことができます。

- ・ **このページのヘルプ**：現在の画面のヘルプが表示されます。
- ・ **ヘルプを参照**：ヘルプシステムのトップ画面が表示されます。ここから、参照したいヘルプを選択できます。
- ・ 画面またはダイアログボックスで **?** をクリックすると、そのダイアログボックスのコンテキスト依存のヘルプが表示されます。



注記: HPE OneView ドキュメントに関するフィードバックを送信するには、docsfeedback@hpe.com にメールを送信します。



設置の問題のトラブルシューティング

以下のトピックでは、インストールの問題に対処する場合のトラブルシューティング情報を提供します。

- ・ アプライアンスがネットワークにアクセスできない
- ・ 仮想ディスクのサイズが正しくないため、アプライアンスのアップデートを続行できない
- ・ アプライアンスのアップデート後に古い UI が表示される
- ・ VM ホストのパフォーマンスが低下している
- ・ IPv6 アドレスのみを使用するデバイスで、一部のタスクとデバイス監視が機能しない
- ・ アプライアンスが IPv6 モードの場合に、タスクが失敗する
- ・ vSphere VM ホストの時刻を手動で設定すると、VM が再起動しない
- ・ OVA ファイルを展開できない
- ・ ログインできない

アプライアンスがネットワークにアクセスできない

症状

アプライアンスがネットワークにアクセスできない。

原因

アプライアンスネットワークが正しく構成されていません。

アクション

1. アプライアンスに ping を実行します。
2. VM コンソールから、ネットワーク構成が正しいことを確認します。
3. VM コンソールから、DNS IP アドレスが正しいことを確認します。
4. VM コンソールから、DNS サーバーが実行されていることを確認します。

仮想ディスクのサイズが正しくないため、アプライアンスのアップデートを続行できない

症状

仮想ディスクのサイズが正しくないため、アプライアンスのアップデートを続行できません。



アクション

アプライアンスの仮想ディスクが、製品のマニュアルに従って構成されているかどうかを確認します。問題が続く場合は、サポートダンプを作成およびダウンロードして、認定サポート担当者に詳しい分析を依頼してください。

アプライアンスのアップデート後に古い UI が表示される

症状

アプライアンスのアップデート後に、ユーザーインターフェイス（UI）の以前のバージョンが表示されません。

原因

UI のキャッシュされたバージョンがブラウザーに表示されます。

アクション

ブラウザーのキャッシュをクリアし、HPE OneView UI をリロードします。

VM ホストのパフォーマンスが低下している

症状

アプライアンスのパフォーマンス不足。

解決方法 1

原因

ホストマシンの電力管理が有効になっています。

アクション

1. ホストマシンで省電力が無効になっていることを確認します。
2. より強力なチップセットを搭載したホストマシンの使用を検討します。
3. アプライアンスに最低限の数の CPU とメモリ（CPU 8 個、24 GB の RAM）が割り当てられていることを確認します。

解決方法 2

原因

ハイパーバイザーホストの I/O パフォーマンス不足。

アクション

1. RAID 構成を確認してください。RAID 構成は低速な I/O の原因となる場合があります。
2. VM をホストしている可能性のある SAN ストレージへの帯域幅を確認します。

3. 予約および共有設定が有効になっているかどうかを確認します。

詳細情報

[HPE OneView サポートマトリックス](#)

IPv6 アドレスのみを使用するデバイスで、一部のタスクとデバイス監視が機能しない

症状

IPv6 アドレスのみを持つデバイスで、一部のタスクとデバイス監視が機能しない。

原因

HPE OneView アプライアンスは、アプライアンスに IPv6 アドレスがある場合でも、IPv4 アドレスで構成されています。IPv6 アドレスのみを使用してデバイスを管理できる唯一の方法は、アプライアンスを IPv6 ネットワークモードで構成することです。

アクション

1. 管理対象デバイスに IPv4 アドレスを追加するか、デバイスを HPE OneView アプライアンスによって IPv6 モードで管理させます。

詳細情報

[HPE OneView アプライアンスのネットワークモード](#)

アプライアンスが IPv6 モードの場合に、タスクが失敗する

症状

アプライアンスでは、最初に IPv4 アドレスを HPE OneView に入力できますが、タスクはエラーメッセージを出して失敗します。

原因

HPE OneView は、IPv6 用に構成されていると、IPv4 ネットワーク上のデバイス間の通信を送受信できません。

アクション

1. アプライアンスが IPv6 用にのみ構成されている場合は、管理対象リソースが IPv6 アドレスを使用していることを確認してください。



vSphere VM ホストの時刻を手動で設定すると、VM が再起動しない

症状

アプライアンス VM が再起動せず、vSphere 仮想コンソールに次のエラーが表示されます。The superblock last mount time is in the future UNEXPECTED INCONSISTENCY; RUN fsck MANUALLY.

原因

アプライアンスが NTP を使用しておらず、VM ホスト時刻が間違っ過去に時刻に設定された。

アクション

VM ホストの時刻設定を正しい時刻にリセットしてから、VM アプライアンスを再起動します。詳しくは、vSphere のドキュメントを参照してください。

アクション

アプライアンスまたは VM ホストが NTP クライアントとして構成されている場合は、NTP サーバーが正しく動作していることを確認します。

OVA ファイルを展開できない

症状

次のメッセージが表示されます。The OVF package is invalid and cannot be deployed.

解決方法 1

原因

選択されたパスに OVA ファイル名が含まれていません。

アクション

OVA ファイルディレクトリに存在する OVA ファイルの完全なアドレスを指定します。完全なアドレスには、ディレクトリ、ファイル名、およびファイル拡張子が含まれます。ディレクトリのアドレスのみを指定した場合、このメッセージが表示されます。

解決方法 2

原因

FTP ファイル転送モードが binary に設定されていません。



アクション

転送モードを `binary` に設定して転送を再度実行してから、チェックサムを確認します。

解決方法 3

原因

ファイルが破損しているか、部分的にダウンロードされた可能性があります。

アクション

ダウンロードを再度実行し、チェックサムを確認します。

ログインできない

症状

アプライアンスに初めてログインするときに、デフォルトの認証情報で失敗する。

解決方法 1

原因

ファクトリーエクスプレスプロセスを使用してユーザー提供のパスワードを選択したため、デフォルトの `administrator / admin` パスワードを使用できません。

アクション

ファクトリーエクスプレスプロセスのフォームで指定したユーザー名とパスワードを入力してください。

解決方法 2

原因

アプライアンスがすでに構成されており、デフォルトパスワードが変更されています。

アクション

1. 初期セットアップを実行した管理者に連絡し、新しいパスワードを取得します。
2. インストールプロセスをもう一度開始します。



Web サイト

全般的な Web サイト

Hewlett Packard Enterprise Information Library

<https://www.hpe.com/info/enterprise/docs>

Hewlett Packard Enterprise Worldwide

<https://www.hpe.com/assistance>

サブスクリプションサービス/サポートのアラート

<https://www.hpe.com/support/e-updates-ja>

上記以外の Web サイトについては、[サポートと他のリソース](#)を参照してください。

製品の Web サイト

HPE OneView のドキュメント

<https://www.hpe.com/info/oneview/docs>

HPE 3PAR StoreServ ストレージ

<https://www.hpe.com/info/storage>

HPE BladeSystem エンクロージャー

<https://www.hpe.com/info/blades-ja>

HPE Integrated Lights-Out (iLO)

<https://www.hpe.com/jp/servers/ilo>

HPE Integrity Superdome X

<https://www.hpe.com/info/superdome>

HPE ProLiant サーバーハードウェア

- ・ 一般情報 : <https://www.hpe.com/info/servers-ja>
- ・ BL シリーズサーバーブレード : <https://www.hpe.com/info/blades-ja>
- ・ DL シリーズラックマウント型サーバー : <https://www.hpe.com/jp/ja/servers/proliant-dl-servers.html>

HPE Superdome Flex サーバー

<https://www.hpe.com/info/superdome>

Insight Remote のドキュメント

<https://www.hpe.com/info/insightremotesupport/docs>

HPE Primera のドキュメント

<https://www.hpe.com/info/Primera600-docs>

HPE Insight Control のドキュメント

<https://www.hpe.com/info/insightcontrol/docs>

HPE OneView Global Dashboard のドキュメント

<https://www.hpe.com/info/ovgd-docs>



Smart Update (SUM/SPP/iSUT/iSUT) のドキュメント

<https://www.hpe.com/info/sut-docs>

Single Point of Connectivity Knowledge (SPOCK) の Storage compatibility matrix

<https://www.hpe.com/storage/spock>

ストレージのホワイトペーパーおよび分析レポート

<https://www.hpe.com/storage/whitepapers>



HPE OneView 製品に関するフィードバック

Hewlett Packard Enterprise へのフィードバックの送信

Hewlett Packard Enterprise に、Hewlett Packard Enterprise 製品についてのフィードバックをお寄せください。Hewlett Packard Enterprise に直接フィードバックを送信するには、<https://www.hpe.com/jp/ja/contact-hpe.html> にアクセスして、**Submit and check case status > [+]Feedback** を選択します。

Gartner Peer Insights へのフィードバックの送信

Hewlett Packard Enterprise は、率直なフィードバックを送信する別のオプションとして、いくつかの第三者のサイトと提携しています。最初の提携は、情報テクノロジーの有益な情報を提供する主要な研究およびコンサルティング会社である Gartner です。Hewlett Packard Enterprise は、HPE OneView をレビューし、15 分以内にフィードバックを送信できる Gartner Peer Insights の調査をセットアップするために Gartner と提携しています。HPE OneView のフィードバックをご提供いただける場合は、リンク <https://gtnr.it/2jgx9Ju> にアクセスしてください。



HPE OneView Remote Technician

HPE OneView Remote Technician を使用すると、問題のトラブルシューティングおよび解決のサポートが迅速かつ容易になります。招待により、認証された Hewlett Packard Enterprise サポート技術者が、問題のトラブルシューティングと診断に安全な TLS 接続を通じて HPE OneView アプライアンスにアクセスします。FTP サイトを必要としないログの直接ダウンロードなど、信頼されたサポート技術者が問題を診断する際に現場にいる必要がありません。

HPE OneView Remote Technician は、追加のアプリケーションなしで HPE OneView 4.1 以降に組み込まれています。

詳細情報

[HPE OneView ヘルプ](#)の「HPE OneView アプライアンスへのリモートアクセスサービスの構成」。



サポートと他のリソース

Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス

- ・ ライブアシスタンスについては、Contact Hewlett Packard Enterprise Worldwide の Web サイトにアクセスします。

<https://www.hpe.com/info/assistance>

- ・ ドキュメントとサポートサービスにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの Web サイトにアクセスします。

<https://www.hpe.com/support/hpesc>

ご用意いただく情報

- ・ テクニカルサポートの登録番号（該当する場合）
- ・ 製品名、モデルまたはバージョン、シリアル番号
- ・ オペレーティングシステム名およびバージョン
- ・ ファームウェアバージョン
- ・ エラーメッセージ
- ・ 製品固有のレポートおよびログ
- ・ アドオン製品またはコンポーネント
- ・ 他社製品またはコンポーネント

アップデートへのアクセス

- ・ 一部のソフトウェア製品では、その製品のインターフェイスを介してソフトウェアアップデートにアクセスするためのメカニズムが提供されます。ご使用の製品のドキュメントで、ソフトウェアの推奨されるソフトウェアアップデート方法を確認してください。
- ・ 製品のアップデートをダウンロードするには、以下のいずれかにアクセスします。

Hewlett Packard Enterprise サポートセンター

<https://www.hpe.com/support/hpesc>

Hewlett Packard Enterprise サポートセンター：ソフトウェアのダウンロード

<https://www.hpe.com/support/downloads>

My HPE Software Center

<https://www.hpe.com/software/hpesoftwarecenter>

- ・ eNewsletters およびアラートをサブスクライブするには、以下にアクセスします。

<https://www.hpe.com/support/e-updates-ja>

- ・ お客様の資格を表示、アップデート、または契約や保証をお客様のプロファイルにリンクするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの **More Information on Access to Support Materials** ページに移動します。



- ❗ **重要:** 一部のアップデートにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターからアクセスするときに製品資格が必要になる場合があります。関連する資格を使って HPE パスポートをセットアップしておく必要があります。

リモートサポート（HPE 通報サービス）

リモートサポートは、保証またはサポート契約の一部としてサポートデバイスでご利用いただけます。リモートサポートは、インテリジェントなイベント診断を提供し、ハードウェアイベントを Hewlett Packard Enterprise に安全な方法で自動通知します。これにより、ご使用の製品のサービスレベルに基づいて、迅速かつ正確な解決が行われます。ご使用のデバイスをリモートサポートに登録することを強くおすすめします。

ご使用の製品にリモートサポートの追加詳細情報が含まれる場合は、検索を使用してその情報を見つけてください。

リモートサポートおよびプロアクティブケア情報

HPE 通報サービス

<http://www.hpe.com/jp/hpalert>

HPE プロアクティブケアサービス

<http://www.hpe.com/services/proactivecare-ja>

HPE データセンターケアサービス

<http://www.hpe.com/services/datacentercare>

HPE プロアクティブケアサービス：サポートされている製品のリスト

<http://www.hpe.com/services/proactivecaresupportedproducts>

HPE プロアクティブケアアドバンストサービス：サポートされている製品のリスト

<https://www.hpe.com/jp/ja/services/proactive-care-central.html>

保証情報

ご使用の製品の保証情報を確認するには、以下のリンクを参照してください。

HPE ProLiant と IA-32 サーバーおよびオプション

<https://www.hpe.com/support/ProLiantServers-Warranties>

HPE Enterprise および Cloudline サーバー

<https://www.hpe.com/support/EnterpriseServers-Warranties>

HPE ストレージ製品

<https://www.hpe.com/support/Storage-Warranties>

HPE ネットワーク製品

<https://www.hpe.com/support/Networking-Warranties>

規定に関する情報

安全、環境、および規定に関する情報については、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターからサーバー、ストレージ、電源、ネットワーク、およびラック製品の安全と準拠に関する情報を参照してください。

<https://www.hpe.com/support/Safety-Compliance-EnterpriseProducts>

規定に関する追加情報

Hewlett Packard Enterprise は、REACH（欧州議会と欧州理事会の規則 EC No 1907/2006）のような法的な要求事項に準拠する必要に応じて、弊社製品の含有化学物質に関する情報をお客様に提供することに全力で取り組んでいます。この製品の含有化学物質情報レポートは、次を参照してください。

<https://www.hpe.com/info/reach>

RoHS、REACH を含む Hewlett Packard Enterprise 製品の環境と安全に関する情報と準拠のデータについては、次を参照してください。

<https://www.hpe.com/info/ecodata>

社内プログラム、製品のリサイクル、エネルギー効率などの Hewlett Packard Enterprise の環境に関する情報については、次を参照してください。

<https://www.hpe.com/info/environment>

ドキュメントに関するご意見、ご指摘

Hewlett Packard Enterprise では、お客様により良いドキュメントを提供するように努めています。ドキュメントを改善するために役立てさせていただきますので、何らかの誤り、提案、コメントなどがございましたら、ドキュメントフィードバック担当 (docsfeedback@hpe.com) へお寄せください。このメールには、ドキュメントのタイトル、部品番号、版数、およびドキュメントの表紙に記載されている刊行日をご記載ください。オンラインヘルプの内容に関するフィードバックの場合は、製品名、製品のバージョン、ヘルプの版数、およびご利用規約ページに記載されている刊行日もお知らせください。

